

## 2022年 通常総会 議案資料

---

日 時 : 2022年3月29日(火) 16:00~17:00

場 所 : オンライン(国際文献社会議室)

16:00~17:00 通常総会

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
4. 第1号議案 議事録署名人の選出
5. 第2号議案 2021年度 事業報告
6. 第3号議案 2021年度 収支決算報告
7. 第4号議案 2022年度 事業計画
8. 第5号議案 2022年度 収支予算
9. 第6号議案 2022年度 理事および監事の選出
10. 閉会

17:00~ フェロー贈呈式/学術奨励賞授与式



特定非営利活動法人  
日本バーチャルリアリティ学会

## 第1号議案 議事録署名人の選出

理事から2名を議事録署名人に選任します。

## 第2号議案 2021年度 事業報告

2021年度は、例年の主要行事である第26回目となる大会を立命館大学で開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、前年度に引き続きオンラインで開催いたしました。

### 1. 会員に関する事項

2021年度は、1996年に学会が発足して以来26年目に入り、引き続き、各種行事、学会ホームページなどにおいて、入会者の勧誘を行いました。賛助会員の新規加入は6社を得、正会員67名・学生会員195名の入会がありました。

また、2021年通常総会議決により、正会員49名・学生会員1名・賛助会員1社を会員資格喪失(定款第9条 会費未納)とさせて頂きました。

	正会員	学生会員	賛助会員
1996年度末数	381	100	31
1997年度末数	497	149	38
1998年度末数	578	172	38
1999年度末数	628	205	38
2000年度末数	692	228	37
2001年度末数	686	230	34
2002年度末数	761	257	33
2003年度末数	788	265	30
2004年度末数	844	273	26
2005年度末数	828	269	21
2006年度末数	869	191	23
2007年度末数	835	268	23
2008年度末数	832	281	23
2009年度末数	842	263	22
2010年度末数	855	307	18

2011年度末数	848	361	20
2012年度末数	853	341	20
2013年度末数	857	312	20
2014年度末数	867	307	18
2015年度末数	900	303	19
2016年度末数	960	335	34
2017年度末数	1033	383	40
2018年度末数	1078	379	40
2019年度末数	1047	453	41
2020年度末数	1113	378	37
2021年度末	1132	430	40
2021年度目標	1123	450	41
2021年度目標との差	9	▲20	▲1

## 2. 広報・出版に関する事項

### (1) 学会誌

2021年度は、学会誌を3月、6月、9月、12月と年間4回発行しました。また、発刊と同時にJ-STAGEに記事(理事会だより等の学会記録部分を除く)を公開しています。過去記事については、承認がとれた記事からJ-STAGE公開予定です

	特集内容
Vol.26, No.1	コロナ禍における研究室運営
Vol.26, No.2	AR/MRと産学連携
Vol.26, No.3	究極のHMDは何か？
Vol.26, No.4	第26回大会報告

### (2) 論文誌

2021年度は、論文誌を3月、6月、9月、12月と年間4回発行しました。4分野の特集を企画し、特定域の成果を一覧できるように致しました。本年度の特集内容と掲載された論文数は以下の通りです。

	特集内容	特集 投稿(採録数)	一般 採録数
Vol.26, No.1	VR心理学8	17(8)	5
Vol.26, No.2	特集号不成立	4(1)	5(左記1含む)
Vol.26, No.3	時間・空間・心を超える教育・訓練・伝承支援	8(5)	1
Vol.26, No.4	デジタルファブ리케이션とVR	11(6)	5

種類	基礎論文	応用論文	コンテンツ 論文	総説論文	ショート ペーパー	計
論文数	22	5	5	0	4	36

### (3) 文化・芸術

2021年度はVR文化フォーラム2021 in パトレイバー塾 2回の開催をいたしました。

他、幾つかVR文化フォーラムを企画していたのですが、コロナ禍の昨今、開催ができませんでした。状況改善され次第、企画いたしますのでご参加よろしくお願いたします。

## (4) ニュースレター

会員宛てに月1回(年12回), 電子メールによるニュースレターの送付を行いました。同様に, 学会WEBサイトへの投稿を行いました。内容は, 1. 報告集 2. 学会からのお知らせ主催・共催行事のご案内/協賛行事のご案内/論文誌に関するご案内 3. 関連情報CALL FOR PAPER/CALL FOR PARTICIPATION/ニュースレター編集委員会からのお知らせなどで構成され, バーチャルリアリティに関する国内外の情報を中心に情報提供を行いました。

## (5) 電子広報

学会ホームページにて, 年次大会, VR技術者認定制度, 各種会議, 論文誌特集等の情報を随時更新, また学会誌のバックナンバーを公開しております。(https://vrsj.org/)

## 3. 主催・共催事業に関する事項

2021年度に主催・共催した事業は以下となります。(■主催事業・□共催事業)

## ■ 第26日本バーチャルリアリティ学会大会

日時:9月12日~14日

オンライン開催(実施校:立命館大学)

- 大会参加者数:691名(過去最多)
- 発表総数:285件
  - 口頭発表 253件 (企業講演, OSを含む)
  - 技術展示 32件

口頭発表はZoomでの講演を基本として, Discordで参加者管理と質疑管理を行いました。

展示発表について, 空間型ChatのBinoralMeet, 展示資料の提示にMiroを採用しました。

## ■ 「第29回 IVRC (Interverse Virtual Reality Challenge)」

昨年につき, コンテストから各チームのチャレンジをさまざまな観点で評価し顕彰する「VRチャレンジ」として Interverse Virtual Reality Challengeをオンライン+対面の体験会の形式で開催しました。

SEED Stageは完全オンラインとなり, 9月8日に作品講評会, 14日に大会のOSとして書類審査不通過作品復活のチャレンジ枠を含むポスター発表会, 15日に企業賞の授賞式を行いました。LEAP Stageでは大阪と東京と筑波で対面の体験会を行い, オンライン配信の審査会・表彰式でLaval Virtual招待作品を含む27作品から審査員賞, Laval Virtual賞, VRST賞を含む各賞を選出, 発表しました。

- VR文化フォーラム

VR文化フォーラム2021 in パトレイバー塾 2回の開催をいたしました。

- 2021年8月7日(参加者267名)
- 2021年12月18日(参加者175名)

- ICAT-EGVE 2021

2021年9月8日～10日の日程で独ザンクト・アウグスティンにてハイブリッド開催となりました。参加者等の概要は以下の通りです。

- 参加者数 162名(Zoomでの最大参加者数はうち65名)
- Keynote Talk 3件
- Full/Short Paper 12件(投稿数:20件)
- Poster 5件 Demo1件

- AsiaHaptics2021

開催は見送られ、2022年に延期となりました。

- 高臨場感ディスプレイフォーラム2021

2021年11月29日にオンライン開催となりました。

テーマ「～高臨場感映像を創る・高臨場感映像で魅せる～」

#### 4. 企画事業に関する事項

2021年度に企画した事業は以下となります。

##### (1) 研究委員会

計17の研究委員会が下表のように会員に公開する研究会(含、他学会との共催)、OS、講演会、シンポジウムをオンライン中心に開催しました。また研究委員会選奨規程を新設し、研究会委員会全体ならびに研究委員会独自の賞を設置する方法を整理し、以下の計6件の賞が設置されました。

研究委員会全体の賞:

- 研究会貢献賞

研究委員会独自の賞:

- ハプティクス研究委員会研究発表賞
- 触覚若手の会 ベストプレゼンテーション賞

- サイバースペース研究賞
- テレイマージョン技術研究発表賞
- 複合現実感研究委員会研究発表賞

研究委員会名	研究会等の開催回数	備考
サイバースペースと仮想都市研究委員会	6	継続
複合現実感研究委員会	6	継続
アート&エンタテインメント研究委員会	2	継続
VR心理学研究委員会	4	継続
テレイマージョン技術研究委員会	5	継続
香り・味と生体情報研究委員会	3	継続
拡張認知インタフェース調査研究委員会	1	継続
ハプティクス研究委員会	4	継続
情報技術と文化の融合調査研究委員会	2	継続
3次元ユーザインタフェース研究委員会	1	継続
デジタルミュージアム研究委員会	1	継続
VRと超臨場感研究委員会	3	継続
テレイグジスタンス研究委員会	1	継続
超高齢社会のVR活用研究委員会	0	継続
超人スポーツ研究委員会	0	継続
神経刺激インターフェース研究委員会	0	継続
サービスVR研究委員会	1	継続

(2) VR技術者認定講習会・認定試験

第18回と第19回の講習会・試験をそれぞれオンラインで実施しました。

第18回(セオリーコース)

講習会 6月19日 受講者159名

試験 7月17日(再試験7月下旬～7月末) 受験者132名

## 第19回(アプリケーションコース)

講習会 11月20日 受講者96名

試験 12月18日 受験者127名

## 5. 会議に関する事項

## (1) 総会

2021年通常総会を3月26日にオンラインで行いました。

## (2) 理事会

合計6回の理事会を開催いたしました。開催日程は次の通りです。

理事会のない月に会長・副会長及び総務・経理担当者および監事による総務会議を開催致しました。

回	開催日	会場	主な議事
177	1月18日	オンライン	通常総会準備, フェロー選考報告, 各担当理事報告
178	3月1日	オンライン	通常総会資料確認, 開催方法確認, 2020決算・2021予算の提出, 各担当理事報告
179	5月18日	オンライン	第26回大会開催について, 論文賞選考, 各担当理事報告
180	7月29日	オンライン	論文賞選考, 各担当理事報告
181	9月12日	オンライン	第26回大会報告, 各担当理事報告
182	11月16日	オンライン	通常総会・役員選挙スケジュール確認, 第26回大会結果報告, 学術奨励賞結果報告, 各担当理事報告

## (3) 評議員会

回	開催日	会場	主な議事
1	3月26日	オンライン	年間報告・計画について
2	9月13日	オンライン	年間報告・計画について

## 6. 表彰に関する事項

### (1) フェロー

日本バーチャルリアリティ学会フェローは、バーチャルリアリティの学術文化および本会の発展に顕著な貢献を成し、将来にわたって本会の活動を積極的に推進しうる者を顕彰するために、2010年度から称号授与が始まりました。本制度は、会員による推薦に基づいており、2021年度の推薦書より、日本バーチャルリアリティ学会の活動に多大な貢献をなした以下の3名に贈呈することを決定致しました。

石橋 聡(NTTテクノクロス株式会社)、野間 春生(立命館大学)、森山 朋絵(東京都現代美術館)

### (2) 論文賞

論文誌Vol.25No.1 からVol.25No.4に掲載された論文の中から優秀な論文を選考し、5件の論文に論文賞を贈呈致しました。

- 従来の1/12のプロジェクト台数で構成した  
360度観察可能な光線像再生式テーブル型3Dディスプレイ  
(Vol.25, No3 p. 284-289, 2020)吉田 俊介
- StickyTouch: 局所的粘着性を制御可能なタッチディスプレイ  
(Vol.25, No4 p. 384-393, 2020)伊藤 雄一, 白井 僚, 藤田 和之, 高嶋 和毅, 尾上 孝雄
- ドラゴンアバタを用いたプロテウス効果の生起による高所に対する恐怖の抑制  
(Vol.25, No2 p. 2-11, 2020)小柳 陽光, 鳴海 拓志, Jean-Luc. Lugin, 安藤 英由樹, 大村 廉
- モナリザ効果における「顔らしさ」の効果  
(Vol.25, No4 p. 439-450, 2020)森田 磨里絵, 藤井 芳孝, 佐藤 隆夫
- Antenna: 触覚・視覚を利用した聴覚情報伝達装置のデザインと社会実装  
(Vol.25, No4 p. 334-345, 2020)本多 達也, 馬場 哲晃, 岡本 誠

### (3) 学術奨励賞

第26日本バーチャルリアリティ学会大会で優秀な発表を行った若手講演者5名に対して、学術奨励賞を贈呈することを決定致しました。

#### 口頭発表部門

- アイトラッカー搭載型HMDを活用した脳損傷後の視空間性情報処理機能評価  
大橋 勇哉(芝浦工業大学, 国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
- 多電極システムを用いた運動点探索  
鈴木 大河(東京大学工学部)
- 単一レンズ型同軸広角プロジェクター-カメラシステムによる動的プロジェクションマッピングの基礎検討

山本 健太(大阪大学大学院基礎工学研究科)

- 偏加速度振動による力覚生起時の皮膚計測

金子 征太郎(電気通信大学, 日本学術振興会)

- 皮膚塗布型素材を用いたデジタルスキンインタフェースの検討

谷地 卓(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科)

## 第3号議案

## 2021年度 収支決算報告

## 1. 貸借対照表

**貸借対照表**

2021年12月31日現在

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	71,229,278	61,646,346	9,582,932
未収金	2,479,962	4,779,688	△ 2,299,726
前払費用	2,216	2,216	0
未収消費税等	0	630,800	△ 630,800
流動資産合計	73,711,456	67,059,050	6,652,406
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
事務局準備金	20,000,000	20,000,000	0
国際会議準備金	13,800,000	13,800,000	0
国内会議準備金	9,000,000	9,000,000	0
資料編纂・出版準備金	1,800,000	1,800,000	0
特定資産合計	44,600,000	44,600,000	0
固定資産合計	44,600,000	44,600,000	0
資産合計	118,311,456	111,659,050	6,652,406
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	4,119,720	3,195,005	924,715
前受金	346,000	220,000	126,000
預り金	27,011	10,118	16,893
未払法人税等	603,800	556,500	47,300
未払消費税等	468,900	0	468,900
流動負債合計	5,565,431	3,981,623	1,583,808
負債合計	5,565,431	3,981,623	1,583,808
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 一般正味財産	112,746,025	107,677,427	5,068,598
正味財産合計	112,746,025	107,677,427	5,068,598
負債及び正味財産合計	118,311,456	111,659,050	6,652,406

## 2. 正味財産増減計算書

**正味財産増減計算書**

2021年 1月 1日から2021年12月31日まで

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	812,000	636,000	176,000
受取会費	15,502,000	16,524,000	△ 1,022,000
正会員会費	9,355,000	10,665,000	△ 1,310,000
学生会員会費	1,277,000	1,284,000	△ 7,000
賛助会員会費	4,000,000	3,700,000	300,000
一般会員会費	380,000	370,000	10,000
購読会員会費	490,000	505,000	△ 15,000
事業収入	18,246,103	15,786,334	2,459,769
年次大会	6,720,000	6,218,000	502,000
IVRC	1,900,020	2,200,014	△ 299,994
研究委員会活動収入	501,003	498,000	3,003
講習会収入	3,495,500	0	3,495,500
出版収入	5,629,580	6,870,320	△ 1,240,740
過去会誌頒布収入	0	3,120	△ 3,120
論文誌投稿料収入	4,157,000	5,231,000	△ 1,074,000
その他出版物収入	1,472,580	1,636,200	△ 163,620
その他収入	155,903	57,006	98,897
損金計上済み未収会費収入	0	30,000	△ 30,000
雑収入	154,995	22,515	132,480
受取利息	908	4,491	△ 3,583
経常収益計	34,716,006	33,003,340	1,712,666
(2) 経常費用			
事業費	19,200,374	15,769,125	3,431,249
通常総会費	92,675	282,915	△ 190,240
年次大会費	4,320,462	3,950,374	370,088
IVRC	3,468,951	3,115,501	353,450
研究委員会活動費	888,998	1,216,818	△ 327,820
講習会費	3,736,037	0	3,736,037
出版事業費	6,134,535	6,462,822	△ 328,287
学会誌	3,760,493	3,792,685	△ 32,192
論文誌	1,517,081	1,612,148	△ 95,067
その他刊行費	856,961	1,057,989	△ 201,028
授与費	558,716	740,695	△ 181,979
管理費	8,542,762	10,999,044	△ 2,456,282
印刷費	6,484	6,235	249
消耗品費	4,103	51,810	△ 47,707
諸会費	50,000	50,000	0
通信運搬費	210,630	273,758	△ 63,128
情報システム管理費	946,914	1,047,802	△ 100,888
電子広報費	165,000	165,000	0
会議費	40,920	193,900	△ 152,980
光熱水料	0	24,912	△ 24,912
賃借料	0	2,075,670	△ 2,075,670
支払手数料費	240,643	265,303	△ 24,660
租税公課	469,033	369,330	99,703
事務局運営費	6,409,035	6,475,324	△ 66,289
その他	1,300,472	1,300,000	472
雑費	1,300,472	1,300,000	472
経常費用計	29,043,608	28,068,169	975,439
評価損益等調整前当期経常増減額	5,672,398	4,935,171	737,227
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,672,398	4,935,171	737,227
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	5,672,398	4,935,171	737,227
法人税、住民税及び事業税	603,800	556,500	47,300
当期一般正味財産増減額	5,068,598	4,378,671	689,927
一般正味財産期首残高	107,677,427	103,298,756	4,378,671
一般正味財産期末残高	112,746,025	107,677,427	5,068,598
II 正味財産期末残高	112,746,025	107,677,427	5,068,598

## 3. 予算対比正味財産増減計算書

## 予算対比正味財産増減計算書

2021年 1月 1日から2021年12月31日まで

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	700,000	812,000	△ 112,000
受取会費	16,762,000	15,502,000	1,260,000
正会員会費	11,015,000	9,355,000	1,660,000
学生会員会費	1,512,000	1,277,000	235,000
賛助会員会費	3,700,000	4,000,000	△ 300,000
一般会員会費	30,000	380,000	△ 350,000
購読会員会費	505,000	490,000	15,000
事業収入	19,343,000	18,246,103	1,096,897
年次大会	6,300,000	6,720,000	△ 420,000
IVRC	2,200,000	1,900,020	299,980
研究委員会活動収入	435,000	501,003	△ 66,003
講習会収入	3,398,000	3,495,500	△ 97,500
出版収入	7,010,000	5,629,580	1,380,420
過去会誌頒布収入	10,000	0	10,000
論文誌投稿料収入	5,000,000	4,157,000	843,000
その他出版物収入	2,000,000	1,472,580	527,420
その他収入	305,000	155,903	149,097
雑収入	300,000	154,995	145,005
受取利息	5,000	908	4,092
経常収益計	37,110,000	34,716,006	2,393,994
(2) 経常費用			
事業費	22,016,529	19,200,374	2,816,155
通常総会費	300,000	92,675	207,325
年次大会費	4,000,000	4,320,462	△ 320,462
IVRC	4,597,232	3,468,951	1,128,281
研究委員会活動費	1,590,337	888,998	701,339
講習会費	4,094,460	3,736,037	358,423
出版事業費	6,684,500	6,134,535	549,965
学会誌	4,008,500	3,760,493	248,007
論文誌	1,666,000	1,517,081	148,919
その他刊行費	1,010,000	856,961	153,039
授与費	750,000	558,716	191,284
管理費	8,398,000	8,542,762	△ 144,762
印刷費	8,000	6,484	1,516
消耗品費	70,000	4,103	65,897
諸会費	50,000	50,000	0
通信運搬費	300,000	210,630	89,370
情報システム管理費	750,000	946,914	△ 196,914
電子広報費	170,000	165,000	5,000
会議費	200,000	40,920	159,080
支払手数料費	300,000	240,643	59,357
租税公課	400,000	469,033	△ 69,033
事務局運営費	6,150,000	6,409,035	△ 259,035
その他	1,300,000	1,300,472	△ 472
雑費	1,300,000	1,300,472	△ 472
経常費用計	31,714,529	29,043,608	2,670,921
評価損益等調整前当期経常増減額	5,395,471	5,672,398	△ 276,927
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,395,471	5,672,398	△ 276,927
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	5,395,471	5,672,398	△ 276,927
法人税、住民税及び事業税	556,500	603,800	△ 47,300
当期一般正味財産増減額	4,838,971	5,068,598	△ 229,627
一般正味財産期首残高	107,677,427	107,677,427	0
一般正味財産期末残高	112,516,398	112,746,025	△ 229,627
II 正味財産期末残高	112,516,398	112,746,025	△ 229,627

## 4. 財産目録

## 財産目録

2021年12月31日現在

特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金	普通預金 みずほ銀行本郷支店(2578257) ゆうちょ銀行〇一八店(5960736) 三菱UFJ銀行本郷支店(4615998) きらぼし銀行春日町支店(4044400) りそな銀行本郷支店(1749463) みずほ銀行本郷支店(2677247) サハ'スハ'スと仮想都市研究委員会 郵便振替口座 東京振替貯金局(00120-8-161702)	運転資金として(VRSJ) 運転資金として(IVRC) 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として 運転資金として	36,970,292 34,423,855 910,698 135,381 100,873 53,330 848,915 497,240 34,258,986 34,258,986
未収金	未収会費 論文集投稿料 その他請求	2020年度未収会費 論文投稿料Vol126-1_2件、Vol126-4_12件 著作権料、第26回大会余剰金	2,479,962 342,000 1,855,000 282,962
前払費用	さくらインターネット㈱	ドメインサービス利用料(2022/1/23-2023/1/22)	2,216
流動資産合計			73,711,456
(固定資産)			
特定資産			
事務局準備金	定期預金三菱UFJ銀行本郷支店(4615998) 定期預金きらぼし銀行春日町支店(4019664)		20,000,000 10,000,000 10,000,000
国際会議準備金	定期預金みずほ銀行本郷支店(6689991)		13,800,000
国内会議準備金	定期預金りそな銀行本郷支店(4071426) 定期預金みずほ銀行本郷支店(6689991) 定期預金みずほ銀行本郷支店(6689991)		9,000,000 6,000,000 1,000,000
資料編纂・出版準備金	定期預金みずほ銀行本郷支店(6689991)	アート&エンタテインメント研究委員会	2,000,000
資料編纂・出版準備金	定期預金みずほ銀行本郷支店(6689991)		1,800,000
固定資産合計			44,600,000
資産合計			118,311,456
(流動負債)			
未払金			4,119,720
印刷製本費	国際文献社、レタープレス	Vol126-4論文誌・学会誌関連費用	1,262,608
講習会費	語謝金、イー・コミュニケーションズ、国際文献社	第19回VR技術者認定講習会試験関連費用	1,294,798
研究委員会口	語謝金	VRと超臨場感研究会	10,000
事務局運営費	国際文献社	10-12月事務局業務委託費	1,472,149
その他	語謝金	IVRC2021	80,165
前受金			346,000
入会金		翌年度以降入会金	4,000
正会員会費		翌年度以降正会員会費	36,000
学生会員会費		翌年度以降学生会員会費	46,000
賛助会員会費		翌年度以降賛助会員会費	200,000
一般会員会費		翌年度以降一般会員会費	10,000
購読会員会費		翌年度以降購読会員会費	50,000
預り金	四谷税務署	源泉徴収税	27,011
未払法人税等	四谷税務署、新宿都税事務所	2021年度法人税等	603,800
未払消費税等	四谷税務署	2021年度消費税	468,900
流動負債合計			5,565,431
負債合計			5,565,431
正味財産			112,746,025

## 4. 財務諸表に関する注記

**財務諸表に対する注記**

## 1. 重要な会計方針

## (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方法による。

## 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
事務局準備金	20,000,000	0	0	20,000,000
国際会議準備金	13,800,000	0	0	13,800,000
国内会議準備金	9,000,000	0	0	9,000,000
資料編纂・出版準備金	1,800,000	0	0	1,800,000
合 計	44,600,000	0	0	44,600,000

## 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対する額)
特定資産				
事務局準備金	20,000,000	(0 )	(20,000,000 )	(0 )
国際会議準備金	13,800,000	(0 )	(13,800,000 )	(0 )
国内会議準備金	9,000,000	(0 )	(9,000,000 )	(0 )
資料編纂・出版準備金	1,800,000	(0 )	(1,800,000 )	(0 )
合 計	44,600,000	(0 )	(44,600,000 )	(0 )

## 4. その他

毎期末収会費を計上していたが、同時に多額の未収会費放棄損を計上することとなっていることを踏まえ、未収会費の計上をおこなわないこととした。

また、次年度以降に入金のあった過年度会費については、その事業年度の収入として計上することとする。

**附属明細書**

## 1. 特定資産の明細

特定資産について、財務諸表の注記 2. 特定資産の増減額及びその残高に記載をしているため、記載を省略する。

## 5. 会計監査報告

特定非営利活動法人日本バーチャルリアリティ学会

会長 大須賀 美恵子 殿

特定非営利活動法人日本バーチャルリアリティ学会の2021年度決算報告書について監査を実施しました。その結果、帳簿類並びに領収書等は完備されており、支出ならびに収支決算について適切であると判断いたしました。

2022年 2月 24日

監事

石橋 聡 

2022年 2月 24日

監事

榎並 和雅 

## 第4号議案 2022年度 事業計画

2022年度は学会発足以来27年目であり、これまでの実績に基づいて、より充実した学会運営体制を構築してまいります。おもな事業として、第27回大会を札幌市立大学芸術の森キャンパスで開催致します。これまで以上に会員サービスの一層の充実を図るとともに、学会の基盤をさらに固めるために、会員数の増加を推進致します。

### 1. 会員に関する事項

2022年度は、学会が発足後27年目であり、一層充実した組織体制を構築する必要があります。このため、会員増を目指した積極的な勧誘を継続的に実施いたします。学会WEBページでの入会受け付けなどにより、入会希望者の便を図るとともに、賛助会員についても関連団体・企業の新規加入を目指して努力いたします。2022年度の目標を次表に示します。また、定款第9条に従い、所定の手続きの上、正会員50名、学生会員4名を資格喪失(会費未納入)とします。

	正会員	学生会員	賛助会員
2021年度末数	1123	450	41
2022年度目標数	1150	450	43

### 2. 広報・出版に関する事項

#### (1) 学会誌

2022度は、第27巻として、3、6、9、12月の年4回の発行を予定しており、特集として以下の企画と、札幌市立大学で行われる第27回大会報告を予定しています。

	特集内容
Vol.27, No.1	ポスト・コロナ時代に向けたテレイマージョン
Vol.27, No.2	生物飼育はVRだ！行動生態学者の採集フィールドワーク
Vol.27, No.3	人のデジタルツイン(打診中)
Vol.27, No.4	第27回 大会報告

#### (2) 論文誌

2022度も、論文誌は年4回(3、6、9、12月)発行します。会員からの投稿論文(基礎論文、応用論文、コンテンツ論文、ショートペーパー)および、特定のトピックスに焦点をあてた専門家による総説論文を対象とします。また、毎年特集テーマを決め、ゲストエディタをお願いして、特集論文の投稿を積極的に勧誘します。

尚、今後の特集内容は以下を企画しております。

	特集内容
Vol.27, No.1	五感と感覚間相互作用
Vol.27, No.2	テレレジスタンス
Vol.27, No.3	神経インタフェース
Vol.27, No.4	人間拡張:身体, 運動, 知覚, 認知の拡張

(3) 文化・芸術

コロナ禍による 状況が改善され次第, 企画いたしますのでご参加よろしくお願いたします。

(4) ニュースレター

バーチャルリアリティに関する有益な情報を整理してニュースレター形式に編集し, 月に1回, 電子メールにて会員に送付します。またホームページでも会員向けに最新のニュースレターを掲載します。

内容は, 2021度に続き「1. 報告集 2. 学会からのお知らせ 主催・共催行事のご案内／協賛行事のご案内／論文誌に関するご案内 3. 関連情報 CALL FOR PAPER／CALL FOR PARTICIPATION／ニュースレター編集委員会からのお知らせ」などで構成されます。

本学会員が国内外のバーチャルリアリティの動向や進行中のアクティビティを的確に把握できるよう努め, 多様なイベントにあわせて随時特集を掲載, 会員サービスの向上を目指して刊行いたします。

(5) 電子広報

取材や問い合わせに対応しています。

また, 学会ホームページにて, 年次大会, VR技術者認定制度, 各種会議, 論文誌特集等の情報を随時更新しております。(https://www.vrsj.org/)

(6) 出版

教科書「バーチャルリアリティ学」の更なる拡充として下記の別冊教科書企画が進行中です。

- ・ 「ヘッドマウントディスプレイ最前線」
- ・ 「神経刺激インタフェース学」
- ・ 「XRと拡張認知インタフェース」

### 3. 主催・共催事業に関する事項

2022年度は以下の事業を予定しております。(■主催事業・□共催事業)

- Augmented Humans 2022
  - ・ 2022年3月13日(日)–15日(火)
  - ・ ドイツ/オンライン(ハイブリッド)
  - ・ 実行委員長:持丸 正明(筑波大学)
- 第27回日本バーチャルリアリティ学会大会
  - ・ 2022年9月12日(月)–14日(水)
  - ・ 札幌市立大学 芸術の森キャンパス
  - ・ 大会長:石井 雅博(札幌市立大学)
- ICAT-EGVE2022
  - ・ 2022年11月30日–12月2日
  - ・ 慶大矢上/日吉キャンパス
  - ・ 名誉実行委員長:斎藤 英雄
  - ・ 実行委員長:杉本 麻樹
- 第30回 IVRC (Interverse Virtual Reality Challenge)
  - ・ SEED Stage 2022年9月初旬 対面の体験審査会を含む形式. 別途 第27回日本バーチャルリアリティ学会大会(札幌市立大学芸術の森キャンパス)内にてOS開催.
  - ・ LEAP Stage 2022年11月 対面の体験審査会を含む形式.
- AsiaHaptics
  - ・ 2022年11月7日(月)~9日(水)
  - ・ 北京
- 高臨場感ディスプレイフォーラム2022
  - ・ 調整中

### 4. 企画事業に関する事項

2022年度は以下の企画を予定しております.

#### (1) 研究委員会

各研究委員会は、本年度以下のように17の研究委員会が研究会、シンポジウム、セミナー等の開催を予定しています.

研究委員会名	研究会等開催回数	備考
サイバースペースと仮想都市研究委員会	4	継続
複合現実感研究委員会	3	継続
アート&エンタテインメント研究委員会	2	継続
VR心理学研究委員会	2	継続
テレイマージョン技術研究委員会	3	継続
香り・味と生体情報研究委員会	4	継続
拡張認知インタフェース調査研究委員会	2	継続
ハプティクス研究委員会	3	継続
情報技術と文化の融合調査研究委員会	1	継続
3次元ユーザインタフェース研究委員会	1	継続
デジタルミュージアム研究委員会	1	継続
VRと超臨場感研究委員会	3	継続
トレイグジスタンス研究委員会	3	継続
超高齢社会のVR活用研究委員会	1	継続
超人スポーツ研究委員会 (人間拡張研究委員会に名称変更予定)	3	継続
神経刺激インターフェース研究委員会	1	継続
サービスVR研究委員会	1	継続

(2) VR技術者認定講習会・認定試験

第20回(セオリーコース)

オンラインで春に実施予定です。

第21回(アプリケーションコース)

オンラインで秋に実施予定です。

5. 会議に関する事項

(1) 総会

2022年通常総会を3月29日にオンラインで行います。

## (2) 理事会

合計6回(1月, 3月, 5月, 7月, 9月, 11月)の理事会を開催する予定です.

尚, 理事会のない月に会長・副会長及び総務・会計担当者による総務会議を開催する予定です.

## (3) 評議員会

合計2回の評議員会を開催する予定です.

回	開催日	会場	主な議事
1	3月29日	オンライン	年間報告・計画について
2	9月13日	札幌市立大学芸術の森キャンパス	年間報告・計画について

## 6. 表彰に関する事項

## (1) フェロー

会長を委員長とするフェロー選考委員会を組織し, 2022年フェロー称号の授与者を決定する予定です.

## (2) 論文賞

論文誌Vol.26, No.1 からVol.26, No.4に掲載された論文の中から優秀な論文を選考し, 5件程度の論文に論文賞を贈呈する予定です.

## (3) 学術奨励賞

第27回日本バーチャルリアリティ学会大会で優秀な発表を行った若手講演者に対して, 学術奨励賞を贈呈する予定です.

## 第5号議案

## 2022年度 収支予算

## 収支予算書

2022年 1月 1日から2022年12月31日まで

(単位：円)

科	目	金額	小計・合計
<b>[A]</b>	<b>経常収益</b>		
1	受取会費		17,474,000
	受取入会金	900,000	
	正会員会費(普通)	10,030,000	
	正会員会費(上級)	320,000	
	正会員会費(減免)	105,000	
	学生会員会費	1,584,000	
	賛助会員会費	4,000,000	
	一般会員会費	50,000	
	購読会員会費(書店)	80,000	
	購読会員会費(図書館)	405,000	
2	受取寄附金		0
	受取寄附金	0	
3	受取助成金等		0
	受取助成金	0	
4	事業収益		23,974,500
	年次大会	7,785,000	
	IVRC	2,700,000	
	AHs	1,670,000	
	ICAT	874,000	
	研究委員会活動収入	457,500	
	通常総会収入	80,000	
	講習会収入	3,398,000	
	出版収入	7,010,000	
5	その他の収益		156,000
	雑収入	155,000	
	受取利息	1,000	
	<b>経常収益計</b>		<b>41,604,500</b>
<b>[B]</b>	<b>経常費用</b>		
1	事業費		
	(1) 人件費		0
	人件費	0	
	(2) その他経費		30,351,965
	通常総会費	300,000	
	年次大会	8,000,000	
	IVRC	4,746,100	
	AHs	1,433,515	
	ICAT	852,249	
	研究委員会活動費	1,824,200	
	講習会費	2,911,401	
	出版事業	9,684,500	
	授与費	600,000	
	<b>事業費計</b>		<b>30,351,965</b>
2	管理費		
	(1) 人件費		0
	人件費	0	
	(2) その他経費		9,219,000
	印刷費	8,000	
	消耗品費	70,000	
	諸会費	50,000	
	通信運搬費	300,000	
	情報システム管理費	1,000,000	
	電子広報費	165,000	
	会費	200,000	
	支払手数料費	300,000	
	租税公課	450,000	
	事務局運営費	6,500,000	
	雑費	176,000	
	<b>管理費計</b>		<b>9,219,000</b>
	<b>経常費用計</b>		<b>39,570,965</b>
	<b>当期経常増減額 [A] - [B] . . . ①</b>		<b>2,033,535</b>
<b>[C]</b>	<b>経常外収益</b>		
	<b>経常外収益計</b>		<b>0</b>
<b>[D]</b>	<b>経常外費用</b>		
	<b>経常外費用計</b>		<b>0</b>
	<b>当期経常外増減額 [C] - [D] . . . ②</b>		<b>0</b>
	<b>税引前当期正味財産増減額 ①+② . . . ③</b>		<b>2,033,535</b>
	法人税、住民税及び事業税 . . . ④		603,800
	前期繰越正味財産額 . . . ⑤		112,746,025
	<b>次期繰越正味財産額 ③-④+⑤</b>		<b>114,175,760</b>

## 第6号議案 2022年度 理事および監事の選出

本会定款第13条に従って、2022理事および監事の選出を行います。

役員候補者選出選挙で選出された理事および監事の候補者は以下の通りです。

■ 会長		
任期2年（新任 任期2024年3月まで）		
竹村 治雄	大阪大学	1982年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業、1987年同大学大学院博士課程単位取得退学。(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)研究員、主任研究員を経て、1994年4月奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授。2001年4月大阪大学サイバーメディアセンター教授。2002年同大学情報科学研究科教授(兼任)。2005年8月同大サイバーメディアセンター副センター長(兼任)、2007年8月同センター長(兼任)、2011年8月同副センター長(2013年8月まで兼任)、2012年4月全学教育推進機構企画開発部長(兼任)および同教育学習支援部門長(2013年5月まで兼任)、2013年6月教育学習支援センター長(2016年3月まで兼任)、現在に至る。工学博士。主として3次元ユーザインタフェース、複合現実感、HCIの教育・研究に従事。日本バーチャルリアリティ学会フェロー、ヒューマンインタフェース学会、情報処理学会、電子情報通信学会、IEEE、ACM各会員。2014年～2017年本学会副会長。
■ 副会長		
任期1年（非改選 任期2023年3月まで）		
小木 哲朗	慶應義塾大学	1960年神奈川県生まれ。1984年東京大学工学部機械工学科卒業、1986年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了、同年三菱総合研究所入社、1994年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、博士(工学)。1996年東京大学大学院工学系研究科助教授、1999年通信・放送機構MVLリサーチセンター研究員、2004年筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授、2008年より慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。ヒューマンインタフェース、バーチャルリアリティの研究、特に没入型ディスプレイ、高臨場感通信、VR/ARの各種アプリケーション開発に関する研究に従事
任期2年（再任 任期2024年3月まで）		
相澤 清晴	東京大学	1983年東京大学工学部電子工学科卒業。1988年大学院博士課程修了。工博。東京大学助手、講師、助教授をへて、2001年より教授。現在、大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻 教授。この間、1990年から2年間米国イリノイ大学客員助教授。画像・メディア処理に関する研究に従事。電子情報通信学会より、88年学術奨励賞、90年 論文賞及び米澤ファウンダーズメダル、92年 業績賞、98年 論文賞、99年 エレクトロニクスソサイエティ賞を受賞。2002年日本IBM科学賞受賞。IEEE Trans. Image Processing, Trans. Multimedia, Trans. CSVTのAssociate Editor、電子情報通信学会情報システムソサイエ

		<p>ティ会長, 映像情報メディア学会会長を務めた。現在, IEEE MultiMedia, ACM TOMM 等 Editorial Board, ACM SIGMM Executive Comm. Memberを務める。ACM Multimedia2012, ACM ICMR2018 General Co-Chairをはじめとして多数の国際会議等へ貢献。IEEE / IEICE / ITE Fellow, 日本学術会議会員。</p>
<b>■ 理事</b>		
任期1年 (非改選 任期2023年3月まで)		
稲見 昌彦	東京大学	<p>1994年東京工業大学生命理工学部生物工学科卒業。1996年同大学大学院生命理工学研究科修士課程修了。1999年東京大学大学院工学研究科博士課程修了。博士(工学)。同年東京大学リサーチ・アソシエイト, 2001年同大学助手, 2003年電気通信大学知能機械工学科講師, 2005年同大学助教授, 2006年同大学教授。JSTさきがけ研究者, MIT コンピュータ科学・人工知能研究所客員科学者を経て, 2008年慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授。2015年11月東京大学大学院情報理工学系研究科教授, 2016年4月より同大学先端科学技術研究センター教授, 現在に至る。同大学VR教育研究センター応用展開部門長を兼任。JST ERATO稲見自在化身体プロジェクト研究総括, IPA未踏PM, 日本学術会議連携会員。1995年よりIVRC実行委員, 2020年実行委員長, 2004-2005年日本VR学会大会幹事, 2008-2011年同学会理事, 2021-同学会フェロー, SIGGRAPH2016 Etech Chair, ICAT-EGVE2019 General Chair等歴任。【国際担当】</p>
岩井 大輔	大阪大学	<p>2003年, 大阪大学基礎工学部システム科学科卒業。2005年, 同大学院基礎工学研究科博士前期課程修了。2006~2008年日本学術振興会特別研究員。2007年同大学院博士後期課程修了。博士(工学)。2008年同大学院助教。2011年同大学院講師。2013年同大学院准教授。この間, 2007~2008年ドイツ・バウハウス大学客員研究員, 2011年スイス・ETH客員研究員。複合現実感, 質感の科学の研究に従事。【会計担当】</p>
北崎 充晃	豊橋技術科学大学	<p>1992年東京大学文学部心理学専修課程卒業, 1997年同大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了。博士(学術)。1997-2000年同大学院人文社会系研究科助手, 2000年より豊橋技術科学大学工学部講師, 助教授, 准教授を経て, 現在は, 同大学大学院工学研究科情報・知能工学系教授。2005年より日本心理学会専門別議員。2014年より日本基礎心理学会理事。2017年より日本視覚学会幹事。バーチャルリアリティと心理学の融合領域研究に従事。【広報出版担当】</p>
串山 久美子	東京都立大学	<p>1982年武蔵野美術大学建築学科卒業, 1984年筑波大学大学院芸術研究科修了, メディア制作を業務とする株式会社グロースを起業, 1992年より武蔵野美術大学, 早稲田大学, 千葉大学非常勤講師, 2005年JSTさきがけ研究員, 東京農工大学客員教授を経て2006年より首都大学東京システムデザイン研究科教授に就任。博士(デザイン学)情報処理学会DCON編集委員。専門はインタラクティブアート&amp;デザイン, バーチャルリアリティ, 触視覚ディスプレイの開発と研究。1981年よりメディアアート作品発表, 2000年よりSIGGRAPH Art Gallery, Emerging Technology やArs Electronicaなどに数多く出展。【文化芸術担当】</p>

黒田 晴彦	グーグル・クラウド・ ジャパン	1980年東北大学電気工学科卒, 同年三井物産株式会社入社. 1998年欧州三井物産システム課General Manager, 2003年三井物産経営改革推進部IT戦略企画室長, 2009年IT推進部副部長. Chief IT Architectとして三井物産におけるグローバルシステム全体像のランドデザイン(IT-Landscape)設計と構築を担当. 2016年デル株式会社最高技術責任者に就任, 2020年よりデル・テクノロジーズ株式会社最高技術責任者, 2021年よりグーグル・クラウド・ジャパン技術理事.【認定担当】
小泉 直也	電気通信大学	2012年慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科後期博士課程修了. 博士(メディアデザイン学). 日本学術振興会特別研究員PD, 東京大学情報学環研究員を経て, 現在, 電気通信大学情報理工学研究科准教授. 知覚作用インタフェース, 空中像光学系やクロミック作用を利用したディスプレイの研究に従事.【学会誌担当】
半田 拓也	NHK 放送技術研究所	2001年, 電気通信大学大学院電子工学専攻修了. 同年, NHK 入局. 岡山放送局を経て, 2005年より, 放送技術研究所においてユニバーサルサービス, 触覚インタフェース, AR/VRなどの研究に従事. 現在, NHK放送技術研究所空間表現メディア研究部上級研究員. 同学会ハプティクス研究委員会委員. 2020年, 東京大学大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻修了. 博士(科学).【ニューズレター担当】
苗村 健	東京大学	1992年東京大学工学部電子工学科卒. 1997年同工学系研究科電子工学専攻博士課程修了. 博士(工学). 米国スタンフォード大学 客員助教授(日本学術振興会海外特別研究員), 東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻 准教授を経て, 2013年, 東京大学大学院情報学環 教授. 現在に至る. 現実拡張・対話設計・機械学習などの研究に従事. 2013年, 日本科学未来館において「現実拡張工房」と題した常設展を実施. 文部科学大臣表彰若手科学者賞, 日本バーチャルリアリティ学会論文賞, ヒューマンインタフェース学会論文賞, 映像情報メディア学会丹羽高柳賞論文賞, 電子情報通信学会HCG賞, 経産省Innovative Technologies, グッドデザイン賞など受賞多数. 本学会では, 2021年フェロー, 2019年第24回大会長, 2011年第16回大会プログラム委員長, 2006-2011 アート&エンタテインメント研究委員会委員長, 2008-2012 論文委員会委員などを歴任.【文化芸術・大会担当】
野間 春生	立命館大学	1989年筑波大学第三学群基礎工学類卒業, 1994年筑波大学博士課程工学研究科修了. 同年株式会社国際電気通信基礎技術研究所入所, 2013年から立命館大学 情報理工学部 教授. 専門はバーチャルリアリティ, 特にハプティックインタフェース, さらには, ユビキタスコンピューティング, ウェアラブルセンサ, センサーネットワーク等の研究にも従事. 博士(工学). 日本バーチャルリアリティ学会, 計測自動制御学会, 電子情報通信学会, 日本ロボット学会, IEEE, ACM 各会員. 本学会では初期のニューズレター委員, 学会誌委員, 論文誌委員などを過去に歴任.【研究運営委員会・大会担当】
任期2年 (再任 任期2024年3月まで)		
黒田 嘉宏	筑波大学	2000年京都大学総合人間学部基礎科学科卒業, 2005年同大学大学院情報学研究科社会情報学専攻博士後期課程修了. 同年, 同大学医学研究科特任助手, 2006年大阪大

		学大学院基礎工学研究科助手, 2013年同大学サイバーメディアセンター准教授, 2016年同大学大学院基礎工学研究科准教授, 2019年筑波大学システム情報系教授, 現在に至る. 博士(情報学). 物理モデルに基づく非拘束インタラクション技術, 生体物理シミュレーション, 医用システムに関する研究に従事. 2006年~2010年本学会ニューズレター編集委員会ならびに学会誌委員会 委員, 2012年~2018年本学会論文委員会 委員, 2018年~2020年本学会ハプティクス研究委員会 委員長.【研究運営委員会担当】
永谷 直久	京都産業大学	2005年電気通信大学電気通信学部知能機械工学科卒業. 2011年電気通信大学大学院電気通信学研究科博士後期課程単位取得済み退学. 2012年3月博士(工学). 日本学術振興会特別研究員(DC1). 2012年東北大学大学院情報科学研究科研究特任助教, 2013年八戸工業大学防災技術社会システム研究センター博士研究員, 2015年京都産業大学コンピュータ理工学部助教を経て, 2018年より京都産業大学情報理工学部准教授, 現在に至る. ヒトの感覚知覚特性を利用した感覚拡張インタフェースの研究に従事. 2005年より日本バーチャルリアリティ学会に所属し, ニュースレター編集委員(2014-2018), VR技術者認定制度委員会委員(2017-2020), 学会誌編集委員会委員(2017-), 2021年より編集委員長を務める.【学会誌担当】
鳴海 拓志	東京大学	2006年東京大学工学部システム創成学科卒業. 2008年東京大学大学院学際情報学府修了. 2011年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了. 東京大学大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻助教, 講師を経て, 2019年より准教授, 現在に至る. 博士(工学). クロスモーダルインタフェース, ゴーストエンジニアリング等の研究に取り組む. 本学会では, ニュースレター編集委員会 委員(2011~2013)および幹事(2014~2017), 論文委員会 幹事(2016~2019)副委員長(2020~), デジタルミュージアム研究委員会 幹事(2011~), 情報技術と文化の融合研究委員会 幹事(2017~), 複合現実感研究委員会 委員(2013~), VR文化フォーラム運営委員会 委員(2014~), ASIAGRAPH運営委員会 委員(2014~), 大会 プログラム委員(2011, 2018), 企画委員(2013), 広報担当(2020), 幹事(2014, 2019), 幹事(総務兼任)(2015)を務める.【論文誌担当】
野嶋 琢也	電気通信大学	1998年東京大学工学部計数工学科卒業. 2003年同大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了. 博士(工学). 2003年航空宇宙技術研究所研究員, 組織改編により現在の宇宙航空研究開発機構研究員を経て, 2008年より電気通信大学大学院情報システム学研究科准教授. 2016年より同大情報理工学研究科准教授. 現在に至る. 2008年よりVR学会企画委員, 2014年より同論文委員. 触覚インタフェース, オーグメンテッドスポーツ, エンタテインメント等の研究に従事. 2016年より超人スポーツ研究委員会幹事を務める. 2015年度~2018年度理事(企画・認定担当. 2017年度10月より総務担当兼任)2020年度より総務担当理事【総務担当】
任期2年 (新任 任期2024年3月まで)		
大谷 智子	明治大学	明治大学総合数理学部助教. 2004年, 聖心女子大学大学院文学研究科人間 科学専攻博士後期課程満期退学. 東京大学大学院情報学環特任助教, 東京大学インテリジェントモデリングラボラトリー特任研究員, 東北大学電気通信研究所助教, 東京藝術大学芸術

		情報センター助教を経て、2015年度から現職。2008年に聖心女子大学にて博士号(心理学)取得。人間の色知覚に関する研究や、インタフェースやデジタルコンテンツの心理学的評価を行うとともに、当該分野の一般社会への理解増進事業に従事。近年は、錯視ブロックを用いた二次元平面と三次元立体の対応に関する研究や、マルチモーダル環境下における臨場感・迫真性に関する研究等を行っている。本学会では、日本VR学会学会誌編集委員(2015～2017年9月はVRメディア評論担当、2016～2018年度副編集委員長、2019年度編集委員長、2020年度～アドバイザー)。情報技術と文化の融合調査研究委員会幹事(2007年～)を務める。【総務担当】
木村 朝子	立命館大学	1996年大阪大学基礎工学部卒。1998年同大学院基礎工学研究科博士前期課程修了。2000年同大学助手、2003年立命館大学理工学部助教授、科学技術振興機構さきがけ研究員等を経て、2009年立命館大学情報理工学部准教授、2012年より同教授。現在に至る。博士(工学)。実世界指向インタフェース、複合現実感、クロスモーダルインタフェース、ハプティックインタフェースの研究に従事。日本バーチャルリアリティ学会、情報処理学会、電子情報通信学会、ヒューマンインタフェース学会、ACM、IEEE各会員。本学会では、論文委員(2008～2011)、会誌委員(2008～2011)を務める。【論文誌担当】
古川 正紘	大阪大学	2005年電気通信大学電気通信学部知能機械工学科卒業。2010年電気通信大学大学院電気通信学研究科博士後期課程修了。2010年3月博士(工学)。日本学術振興会特別研究員(DC2)。2011年慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科特任助教、2014年大阪大学大学院情報科学研究科助教、科学技術振興機構さきがけ研究員を経て、2020年同准教授。現在に至る。トレイグジスタンス、錯覚利用インタフェース、歩行誘導、皮膚触覚の研究に従事。2007年より日本バーチャルリアリティ学会に所属し、2009-2013ニューズレター編集委員、2014-トレイグジスタンス研究委員会幹事、2016-論文誌委員会委員、2018-VR技術者認定制度委員会幹事を務める。【認定担当】
松田 克巳	株式会社フォーラム エイト	1998年龍谷大学経営学部経営学科卒業。同年(株)フォーラムエイト入社。2013年執行役員システム営業マネージャに就任。VR、FEM、設計関連パッケージを活用した各種システム構築に従事し、現在に至る。建設・自動車等の業界を中心に各種ハードウェア・ソフトウェアとVRソフトウェアを連携したシステム構築を多数手がける。VRソフトウェア(UC-win/Road)にて2019年度ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞を構成員として受賞。2019年11月第17回バーチャルリアリティ技術者認定講習会(アプリケーションコース)「第7章 VRコンテンツ」講師担当。【大会担当】
<b>■ 監事</b>		
任期1年 (非改選 任期2023年3月まで)		
石橋 聡	NTT テクノクロス	1982年 徳島大学大学院工学研究科(情報工学専攻)を修了。同年日本電信電話公社(現NTT)入社。以来研究所を中心に、画像処理・映像符号化技術開発および画像通信サービス開発に従事。1988年ATR通信システム研究所。2008年よりNTTサイバースペース研究所長。2010年 NTTアイティ(株)取締役を経て、現在、NTTテクノクロス(株)

		<p>技師長. 2013-16年 本学会副会長. 2017年 画像電子学会会長. 主な著書(共著)『デジタル・ビジュアル通信技術』, 『デジタル情報表現の基礎－音声・画像の符号表現』.</p> <p>1992年 映像情報メディア学会鈴木記念賞受賞. 2015年 画像電子学会フェロー. 工学博士.</p>
任期2年 (新任 任期2024年3月まで)		
岩田 洋夫	筑波大学	<p>1957年東京生まれ. 1981年 東京大学工学部機械工学科卒業, 1986年 東京大学大学院工学系研究科修了(工学博士), 同年筑波大学構造 工学系助手. 現在筑波大学システム情報系教授. バーチャルリアリティ, 特にハプティックインタフェース, ロコモーションインタフェース, 没入ディスプレイの研究に従事. SIGGRAPHのEmerging Technologies に1994年より14年間続けて入選. 東京テクノフォーラム・ゴールドメダル賞(1998年), 文化庁メディア芸術祭優秀賞(2002年), 文部科学大臣表彰 科学技術賞(2011年)などを受賞. 2013年～2020年, 筑波大学グローバル教育院 エンパワーメント情報学プログラムリーダー. 1996年～2007年本学会理事. 2010年～2013年本学会副会長. 2016年～2019年本学会会長.</p>

2022年3月をもって退任する役員は以下の6名です

会長: 大須賀美恵子

理事: 今村伊知郎・佐藤克成・長谷川晶一・柳田康幸

監事: 榎並和雅

以上